



故舟橋辰朗氏の思い出の記

既に中部デザイン協会の会員の皆様にご通知されました様に、当協会の会長であった舟橋辰朗氏が本年6月21日に逝去されました。当協会への入会は昭和37年5月に入会、私と同期に入会していたことを知り、59年間の長期に亘り友人であったことが、懐かしく覚えて来ます。

舟橋辰朗氏を振り返りますと、全く中部デザイン協会の歴史と言ってよいくらいの人で有ったと考えられます。そのことは、2017年(平成29年)12月に実施した中部デザイン協会主催の講演会「中部デザイン協会の誕生と歩み」の中で舟橋氏が詳しく述べられていますが、簡単に概要を下記します。

当時、通産省工業技術院、産業工芸試験所の2代目の所長であった齊藤信次氏が愛知県の産業振興、人材育成のために愛知県に招聘され、当時の愛知県知事、桑原幹根氏と共に1950年(昭和25年)愛知県工業設計家協会(現在の中部デザイン協会)を設立、翌年建設された愛知県工業指導所長となり、デザイン行政全般を統治していました。齊藤信次氏は大変優れた人物で、その後1956(昭和31年)に工業指導所を退官した後、中部デザイン研究所を設立され、数多くのデザイン作品を社会に出されました。

舟橋辰朗氏は名古屋市立工芸高校デザイン科を卒業後、この齊藤信次氏のもと中部デザイン研究所に入社、数々のプロダクトデザイン作品を世に出す傍らクラフトデザインから水彩画やデッサンまで幅広い活動をされ、傍ら大学で非常勤講師もされるなど、その温厚な性格は会員からも人望のある中部デザイン協会の会長として、尊敬されていました。

舟橋辰朗氏はその卓越したデザイン活動として、中部デザイン研究所ではシャチハタ工業(株)の“ネーム9”、ゾルスタンプ台、未来工業(株)のデンコウマック(電気工事用ナイフ)などのデザイン作品多数を社会に送り出し、今日でも多く使われています。その後中部デザイン研究所を退職後もフリーの個人デザイナーとして“フナハシモノコトデザイン”の名の通り毎年のように個展を開催して、木を利用した多くのクラフト作品を見せて頂きました。

「造形・遊形・自然形」2019展覧会



奥様との着物のデザイン合同展示“木と着”の合同展示会、誠に素晴らしい作品が展示され私の脳裏に刻みこまれています。合板を利用した軽快な“掛け時計”は私のアトリエに架けてありいつもみつめております。



「着物と木物」2018展覧会



更に舟橋辰朗氏は優れた文才もあり、私の理事長時代、毎年発行される中部デザイン協会の会長としての冒頭の今年度の方針の図示した解り易い文面によく感動したものです。

中部デザイン協会のかおとして、長い間理事長、会長として様々な行事に参加して頂き、我々を導いて頂き深く感謝の意を表し謹んで哀悼の年を申し上げます。

CCDOのナイトトーク研修ツアー岩手県陸前高田、長野県の上高地、CDAセーリングクルーザーなど舟橋氏と同席した楽しい写真を皆様よりお借り出来ましたので、ご案内致します。

